

生活リズムを整え、進んで 運動に取り組む子どもの育成

大分県国東市立安岐中央小学校

全校児童数	172名(男子85名 女子86名)		
全クラス数	8	教職員数	24名
体育担任制専科教員訪問学校数			1校
訪問校	安岐小学校 (3・4・5・6年生 133名 男子78名 女子55名)		
体育担任制専科教員名		溝部 裕二	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

- ◆休み時間の外遊びに個人差がある。
- ◆自力登校を促しているが車で送迎が多い。
- ◆社会体育をしている子どもとしていない子どもの体力差が大きい。

2 取組の計画

- ① 体育授業の充実
 - ・サーキットタイム実施、指導計画や評価の作成・提示、学習カードの作成、提示、板書の提示、ICT機器の活用。
- ② 指導者の意識・指導力の向上
 - ・体力向上プログラムや一校一実践作成。
 - ・アンケート（子ども・教職員）、校内での体育研修（初任研）、授業公開。
- ③ 体育環境の充実
 - ・運動場や体育館の整備や各倉庫などの整理。
 - ・校内掲示。
 - ◎家庭・地域との連携（PTA、学級・学年通信、学校日より、保健日より、一校一実践の公開）

Do：実践内容

1 体育授業の充実

- (1) サーキット・体幹運動の実施
 - ①授業ははじめの整列前にサーキットタイム
 - ②体幹運動で姿勢保持や体を動かす楽しさを体験
- (2) ICT機器の活用…1人1台タブレットの活用
 - ①自分の動きを確認させたり、教え合わせたりして学習中に「できた」を実感できる活動の展開。

2 指導者の意識・指導力の向上

- (1) 一校一実践見直し・実施
 - ①学期または月ごとに体育目標を位置づけ、子どもたちの運動に対する意欲を高める。
 - ②楽しく意欲的に取り組めるよう、簡潔で肯定的なことばかけをする。
 - ③一校一実践公開（保護者・地域）
 - ④市内ステップアップⅠの対象教員と新採用の教員を訪問し指導助言をする。

(2) 授業公開

- ①4年生水泳運動(潜る浮く運動)(浮いて進む運動)

3 体育環境の充実

- (1) 運動場・体育館の整備と各倉庫の整理
- (2) 用具の準備片付け・場作り

工夫したこと（&苦労した点）

1 体育授業の充実

- (1) サーキットタイムの実施
- (2) 体幹運動を取り入れた準備運動

- (3) 運動量の確保とタブレットの活用のあり方
※必要なソフト、アプリなど環境が整っていない中で、効果的な活用が難しい。

- (4) 兼務校での打ち合わせ（時間の確保が難しい）

- (5) 学習カードや板書（書き込みの時間確保）

2 指導者の意識・指導力の向上

- (1) 一校一実践の見直しと子どもが意欲的に取り組める運動の設定と提案
- (2) スモールステップで成功体験を多くさせたり、1時間の中でできたことを沢山褒めたりして意欲を継続させる。
- (3) 地域・保護者への一校一実践公開
- (4) 担任への負担軽減で、週3時間のうち1時間は授業参観をしてもらい、残り2時間は担任の時間にした。

3 体育環境の充実

- (1) 運動場・体育館の整備・用具倉庫の整理
- (2) 必要な教材教具の準備・作成・補充
- (3) 可能な限り、学習前の用具教材の準備・場の設定
- (4) ノーメディアデー・親子でストレッチをPTA保体部と連携

Check：取組の成果

- ① 運動の場や教材・教具の工夫をしながら学習を進めてきたことで、運動に対するの関心や挑戦してみようとする姿勢が多く見られるようになってきた。
- ② 運動が苦手な子どもや上手くできない子どもにポイントを伝えたり、アドバイスしたりすることで、子どもたちの学習意欲の持続につながった。
- ③ スポーツテストで苦手な子どもの底上げ。

Action：今後の課題

- ① 教材教具の補充。（十分な数がない。兼務校も同様）
- ② 運動に苦手意識をもつ子どもへの意欲の持続
- ③ 家庭や地域との連携と啓発活動。
- ④ 兼務校で専科制担任が一人で指導するため児童の様子把握が困難。
※兼務校では、子どもの様子が十分把握できないため、指導が難しい。
(細かい打ち合わせの時間確保が困難)

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

- 学習の工夫次第で、どの子どもも体を動かすことの楽しさや喜びを味わうことができ、自信につながる。
- 周りから認められることで、学級に自分の居場所を感じられるようになる。
- 運動好きな子どもの増加につながる。

一校一実践



タブレットを使用した授業



縄跳び集会の様子



寒稽古練習